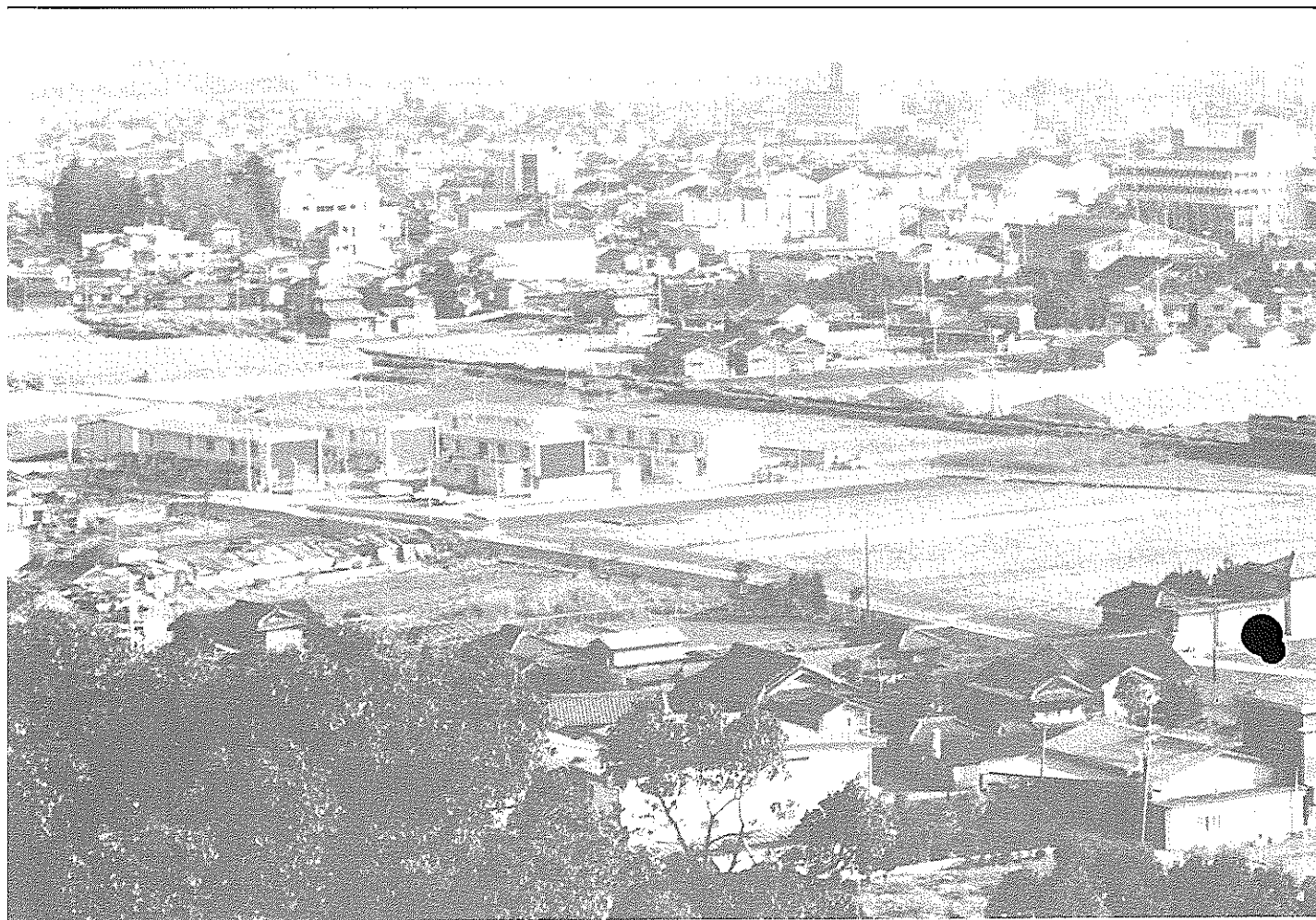
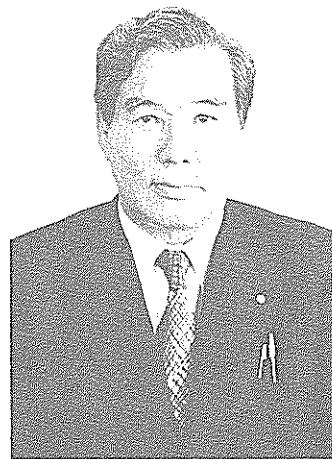




佐佐木希望の家、屋上より市街地を望む

明けましておめでとうございます。昭和五十四年の新春を迎え、ついで新年のごあいさつを申し上げます。南国市は、ことしで市制二十周年を迎えますが、この間市民の皆さんから力強いご支援、ご協力をいただき、着々理想の都市をつくりつつあります。これはまたことによるこぼしばかりです。ご承知のように、執行部と議会とは車の両輪の関係にあり、与えられた職責を果たすとともに、その権限を尊重し、おきないことが自治の本旨であり、それが市民生活の安定、向上につながるものだと思います。そのために、三十人の議員は市民の皆さんの負託に応えるため努力をしていますが、この点は平素の活動でご理解いただけるものと確信しています。議会は自治の理念にたつて山積する課題の解決に対処していますが、その最大のものは財政の健全化だと思います。本年は再建計画がスタートして第四年次ですが、回復基調にあった日本経済も円高などにより再び低迷し、企業利益や個人所得の減少するなかで、市民の皆さんには高負担をお願いし、



南国市議会議長
橋本一二三

おかげさまで当初計画以上に好転していますが、南国市が尊い税金により運営されていることに留意して、より一層効率的な予算執行を図るために議決機関としての使命に徹する決意をあらたにするものです。また、重要課題の一つである高知空港の整備は、時代の要請であると理解できるものの、そのために地権者をはじめ関係者がうける弊害を除くことが議会の基本的な態度でなくてはならないと思います。議会に設置している特別委員会でもこの考え方を堅持して、広く市民の皆さんの意見を謙虚にうけとめて努力を続けています。新春にあたり、当面する重要課題について所惑の一端をのべましたが、私の大きな願いは市民生活の安定と福祉の増進です。執行部、議会一体となって「活力ある都市」づくりに努力を続ける覚悟です。市民の皆さんの一層のご理解、ご協力をお願い申し上げますとともに、ご家族のご多幸を心から祈念して新年のごあいさつとします。



南国市長
小笠原喜郎

皆様あけましておめでとうございます。ご挨拶をかねて今年の念願を申し上げます。まず、従来の課題「財政の再建、空港の整備、同和行政の推進」に今年もゆるみのない努力を続けるつもりです。財政につきましては皆様のご協力により健全化の方向に進んでおりますが、なお積年の債務が相当多数に上っております。今後の赤字解消策についてはデーターを整え、いろいろの角度から研究して、単純にピッチをあげるとかおとすとかではなく、適正なカーブをどこに求めるかに重点をおいて、方針を立てたいと思っております。健全化をあせって、いわゆる行政の縮小均衡をきたすことは市民の多くの方々の望むところではないと推察されます。是否論は別として、歴代内閣は列島改造、三全総、さらに今次の新内閣も地方都市開発を政策の一つとして掲げております。南国市は田園都市ではありませんが、経済的には県都・高知市の一環を形づくりつつあり、しかもその最も将来性のある部位を占めていると見られます。開発がただちに環境破壊や公害につながることはゆるされません。せんが、経済活動の進展におくれないと信じます。空港の整備は大きく動き出しておりますので、これからの流れを洞察することにつとめ、周辺の整備に重点をおいて市民の利益を守り抜かなければなりません。時限立法「同和対策特別措置法」は、懸念されておりましたが、関係者の尽力がみのり、三年間の延長が決まりました。今年は積み残しになっていた課題の解消にまず優先的にとり組み、今後の最もふさわしい事業をとり入れて推進につとめたいと念願しております。おくれおとせと見られている文教方面の施策については引き続き保育所、小中学校の諸施設の充実につとめ二十周年にあたり記念事業として市民図書館の創設をおはかりしたいと思っております。昨年末に成立した新内閣に幸にして、旧友金子一平、渋谷直蔵両氏がそれぞれ、大蔵大臣、自治大臣と地方自治体に特にかかわりの深いポストに就きました。協力を依頼してきましたが、要はうけ入れる側の態勢如何にかかっておりますので、執行部ともども一層職に精励したいと存じます。